



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

厚高同窓会報

第43号 平成21年6月1日発行

旧制中学卒業者 3,915名
新制高校卒業者 24,047名
合 計 27,962名

発行 神奈川県立厚木高等学校同窓会

編集 厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046(221)4078
FAX 046(222)8243
http://www.atsukou-dousou.org/



第3回 青春かながわ校歌祭

昨年のおよすか芸術劇場での「第3回青春かながわ校歌祭」に参加した厚木高校戸陵会の雄姿

第4回青春かながわ校歌祭

10月10日・厚木市文化会館で開催

厚木高校戸陵会が運営を担当

厚木高校戸陵会が担当校同窓会として運営する「第4回青春かながわ校歌祭」(かながわ校歌振興会主催、神奈川県教育委員会共催)は、今年の秋、十月十日(土)厚木市文化会館で開催される。

まり、昨年のおよすか芸術劇場を経て、今年度はいよいよ県央地区の厚木会場となり、実行委員を中心とする組織体制で具体的な計画段階に入っている。

はもとより、一般の方のご来場についても大いに歓迎している。同窓生の皆さまにとつて、この校歌祭が、在校三年間で校歌・応援歌を歌った胸躍った青春のページを再び思い起こす絶好の機会となるものであろうし、また、現役高校生とともに舞台上で「戸室の丘辺旭日射して」と唱う、若さと勇気と真の青春を感じ取る、その魅力が体感できるものと思われる。ぜひとも奮ってのご参加をお待ちしている。

この校歌祭は「かながわ校歌振興会」が主催し、神奈川県内の新制高等学校及び旧制中学校等の校歌・応援歌などの伝承及び振興を図るとともに、卒業生と在校生との交流に努め、併せて会員相互の親睦を増進することを目的としている。三年前に横浜紅葉坂にある県立青少年センターホールから始

り、昨年のおよすか芸術劇場を経て、今年度はいよいよ県央地区の厚木会場となり、実行委員を中心とする組織体制で具体的な計画段階に入っている。

はもとより、一般の方のご来場についても大いに歓迎している。同窓生の皆さまにとつて、この校歌祭が、在校三年間で校歌・応援歌を歌った胸躍った青春のページを再び思い起こす絶好の機会となるものであろうし、また、現役高校生とともに舞台上で「戸室の丘辺旭日射して」と唱う、若さと勇気と真の青春を感じ取る、その魅力が体感できるものと思われる。ぜひとも奮ってのご参加をお待ちしている。

第4回青春かながわ校歌祭 参加高校同窓会名一覧

1. 秦野高校同窓会
2. 希望ヶ丘高校桜蔭会
3. 横浜平沼高校真澄会
4. 小田原高校同窓会
5. 厚木高校戸陵会
6. 厚木東高校常盤会
7. 横須賀大津高校たちばな会
8. 小田原城内高校窓梅会
9. 横須賀高校朋友会
10. 上溝高校鳩友会
11. 神奈川工業高校神奈川工業会
12. 横浜翠嵐高校翠嵐会
13. 商工高校同窓会
14. 湘南高校湘友会
15. 平塚江南高校江南同窓会
16. 逗子高校秀麗会
17. 横浜緑ヶ丘高校牧陵会
18. 藤沢高校藤蔭会
19. 大秦野高校桜塚同窓会
20. 川崎高校柏葉会
21. 横浜立野高校同窓会
22. 光陵高校光陵会
23. 相原高校同窓会
24. 平塚農業高校同窓会

当戸陵会としては、同窓生の参加
事務局長・小島 富司(高18回)

本部活動報告



母校後輩の喜びこそ

同窓会会長 近藤 俊二(高6回)

昨年七月の総会で、第七代同窓会会長に推挙されました近藤でございます。

十三名で構成する本部役員を中心に、理事の皆さん、各支部役員、学校の先生方など大勢の皆さんのお力を借りながら、一生懸命努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この十カ月の間、八つの支部総会に出させていただきました。この総会でも中学卒業の大先輩がお元氣に出席され、戦時中の学校生活や、恩師との強い絆、長く培ってきた同級生との友情など熱く語られ、後輩が静かに聞き入る姿が印象的でした。

母校の文化祭や卒業式にも参加させていただきましたが、たくさんのご家族が参加されていた様子は時代の違いを感じ、同窓会特集を組んでくれた『厚高新聞』の編集委員のインタビューでは、幅広い豊かな教養に頭の下がる思いも感じました。(『厚高新聞』平成二十年十月三十日付・第230号)

同窓会費の徴収は三年目となりましたが、お陰様で順調に推移し二十年度分で、約八百名から六百万円の納入がありました。その浄財から母校支援活動も盛んに行うことが出来、部活動支援・旧体育館の屋根補修・自習室の整備など、どれも生徒たち大変喜ば



平成20年度同窓会総会 (平成20年7月5日)

ばれているところです。また、同窓会活動の進展のために学年全体に呼びかける同期会の開催には、申請に基づいて五万円を支給する規約を作り、すでにいくつかの同期会で適用されました。今、進行中の企画では、百周年事業で展開された資料展に並べられた貴重な資料を学校の一角に常設展示し、後輩諸君の母校愛の増幅に寄与し

山田元会長ご逝去



第五代同窓会会長を務められた山田垣雄氏(同窓会名誉会長)が平成二十年九月にご逝去された。会長の在任期間は、平成元年か

ら十七年まででしたが、第四代会長の茅誠司氏が多忙であったため、三十年余りにわたって同窓会の舵取りをなされた。

氏は、中学27回卒で、在学中は伊勢原から約二時間の道を徒歩通学をなさったと伺っている。東京文理大(現筑波大)を卒業されると教職の道に進まれ、県の社会教育にも携わられた。その後、実業界に転身され、出版・電算学院・不動産関係など広い分野の経営に

当たられた。中でもご自身の奥深い歴史観と郷土愛から執念を燃やされた『かながわ風土記』の出版は三六号まで続けられ、神奈川の歴史をひもとく貴重な文献と評価されている。

また、大山阿夫利神社の文化財「薪能」の再興に熱い情熱を傾けられたり、大山二の鳥居の復活保存などふるさと思考の強さが、同窓会活動への献身にも向けられたものと思われる。大先輩のご冥福を心から祈り、ご逝去のお知らせといたします。同窓会会長 近藤 俊二



屋根の修繕工事がなされた旧体育館



空調も完備の自習室

旧体育館の修繕・自習室の整備に同窓会基金より約620万円を支援

今回修繕工事された旧体育館は建築から四十年がたち屋根の老朽化が激しいために雨天時の雨漏りがひどく、授業や部活動に支障が生じていた。そのため、夏休みを使って屋根の工事が行われた。この工事によって旧体育館は錆が目立っていった今までの屋根から黄緑

色の綺麗な屋根となった。同時に校舎から旧体育館の前を通って新体育館へと続く通路の屋根や柱なども修繕された。一棟三階東の一三九教室(合併教室)に新たに整備された自習室は、夏休みが明け、机の数が今までの倍に増えた。また、机には全て個別の仕切りが付いていて集中して学習に取り組める。「塾の自習室より集中できる」と利用した生徒からは好評を得ている。また、自習室は空調が完備されており、快適に学習をすることが出来る。今回行われた工事は、同窓会の「母校教育振興基金」によって費用が捻出された。この母校教育振興基金は、平成十四年に行われた厚高百周年記念事業の際に募った寄付金の残金と同窓会費によって構成されている。その使途は学校側と同窓会との協議によって決められるもので、今年度はこの基金から約六百二十万円が旧体育館と自習室の整備に使用された。(『厚高新聞』平成二十年十月三十日付・第230号)

ていきたいと考えております。今年はまだ厚木高校同窓会の画期的な飛躍の年になると信じております。それは一面でも紹介した通り、県立高校の同窓会で組織する「第四回青春かながわ校歌祭」を十月に厚木市文化会館に迎えることです。現役の生徒と同窓生が一体となって声高らかに校歌を歌い合い、「青春再び」を強め合う祭典です。ぜひ一人でも多くの皆さんと肩を組み、「戸室の丘辺...」を高唱し、天下に厚木高校在りを示したいものです。そのエネルギーの大きさが必ず後輩たちの活躍につながることを願っております。

平成21年度の主な行事予定

(21年4月15日現在)

4月13日	創立107周年開校記念日
5月6日	第9回 地引綱会
5月9日	伊勢原戸陵会総会
5月17日	大和戸陵会総会
5月30日	座間戸陵会総会
6月20日	愛川戸陵会総会
6月27日	平成21年度同窓会総会 及び懇親会(厚木商工会議所)
7月	厚木連合戸陵会総会
9月5日・6日	戸陵祭(文化部門)
9月	相模原両青会総会
10月10日	第4回青春かながわ校歌祭 (厚木市文化会館)
11月	秦野戸陵会総会
22年2月	津久井支部会総会
3月	第62回 卒業式
3月	御所見戸陵会総会



戸室の丘に立って

校長 荒木 高司

本年四月、県立深沢高校から異動してまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

前任校長は本県の高校百校計画終盤に開校した新しい学校でしたので、創立百七周年を迎える県下有数の伝統校というまったく異なる舞台を与えられ、身の引き締まる思いでおります。

校内を歩いてみますと、其処此処に月日を重ねたもののみがもつ奥行きある雰囲気を感じ出されておられ、行き交う生徒たちの顔付きにも自信と知性が溢れているように見えました。

そうした生徒を前に、四月六日の入学式では、本校の校風である「質実剛健」について、老子の「柔



「伝統校」に着任し、決意を新たに

副校長 児玉 洋子

坂道を登りつめて校門を入り、丹精された花々や植栽を眺めホッとしつつ、よく掃除された玄関から廊下を進み職員室に着くと、何ともよい緊張感に包まれます。

明るくあいさつ、早くから教材研究に励む先生方、礼儀正しく入室して来る生徒たち。次第に活気づき始まる。このひとときを過ぎただけで、ああいい学校だなと実感します。

弱謙下」という言葉を引いて話をいたしました。安逸に流れがちなしの風潮に流されずに、地に足の着いた実のある生き方をしてほしいこと。例えば水というものは、頼りなく時に力弱く見える事もあ

るが、器に従って様々な形になっても自らの性を見失うことはなく常にへりくだり人より下に居ようとする。しかし、ひとたび事あれば全てを吹き飛ばしてでも自らの道を切り開いていく。これこそ真の強さであり、厚木高校の伝統である実のある剛健ではないかといった内容です。

私は、厚木生には、何事にも全力で当たって貰いたいと思っております。謂わば全力主義というこ

とですが、これは恐らくこれまで幾度となく言われている言葉ではないでしょうか。学業も運動も、はたまた文化活動も、そして人生においても、あれかこれかではなくあれにもこれにも挑戦してほしいのです。厚木生であればハードルが高いほど、それを高い水準でやり遂げることができると思っているからです。

生きていく日々の中では何もかも完ぺきに行くことはできません。場合によってはその必要さえないことも多いのです。しかし、難しいことに全力で立ち向かうことは忘れてはなりません。能力とは不思議なもので、困難な場面を乗り越えることで鍛えられ、使えば使うほど伸びていくものなのです。

かく言う私も、厚木高校で全力で仕事をさせていただきま。改めて、皆様のご支援よろしくお願

いいたします。

前任校長の多摩高校は創立五十余年、厚木高校はその倍の歴史があります。ところが「伝統」という言葉を前任校長ほど聞かないことに、着任後まもなく気づきました。「伝統」と言われなくても、「伝統」の底力を生徒は入学、職員は着任と同時に感得し、日常の営みの中で身につけていくのでしょうか。

身の前先生が前に並び、校歌の歌詞を解説し熱唱したとき、「伝統」と母校愛が伝承されていることを納得しました。

そのような環境のもと、人材を育てることが厚高の「伝統」でありミッションです。学力向上及び人格陶冶をめざして、厚高はさまざまな実践を重ねています。堅実かつニーズを的確にとらえた教育活動を更に展開できるように、緑の下をしっかりと支えなくてはと覚悟を新たにしております。

また、着任直後から同窓会の方々の母校への想いの深さと温かい応援をしばしば見聞きし、厚高の一員となった責任と幸せを感じております。

学校情報

堀英雄校長先生は、三月三十一日付で定年退職され、萩原憲副校長先生が四月二日付で城山高校校長にご栄転されました。

茅賞に野澤さん



母校六十一年の卒業式が三月二日に行われ、本年で四十一年目を数える茅賞を受賞したのは、野澤明里さんです。この賞は本校卒業生である、故・茅誠司氏の文化勲章

AUC(厚木ユナイテッドチルドレン)が

県教育委員会から表彰

AUC(Ausugi United Children)がこれまでのボランティア活動が評価され、昨年十一月十日に神奈川県教育委員会から表彰された。AUCは厚高生を中心に市内の高校二年生が十八人、一年生が二人、中学三年生が一人二年生が一人の計二十二人で不定期に活動し自分たちのやりたいことを自分たちで責任を持って行おうという団



貼まつりでTシャツを販売するAUC

体である。今までに、本厚木駅から厚高までの通学路の途中に壁画を描いたり、あつぎ小江戸まつりで演出を行ったりした。また貼まつりでは、ステージ上でパフォーマンスを行ってオリジナルTシャツを販売し、その売上金約十一万円をユニセフに寄付するなどの活動を行いそれが評価された。

現在は貼まつりでのオリジナルTシャツ売上金募金の第二弾となる「世界幸せ運動第二弾」を展開している。

AUC代表の坂木良太さんと副代表の菅野真以さん、「今は高校二年生が中心となっているのですが次の世代には今までにやってきた活動を継承し、さらに超えてくれることを期待しています」

（『厚高新聞』平成二十一年三月二日付・第231号より）

受賞を記念して設けられたもので学業・人物とも優れた生徒に贈られるもの。

野澤さんは、一年次に「全国高校文芸コンクール二十周年記念イメジキャラクター」に応募し、最優秀賞を受賞。二年次には、新聞部の部長として全国高等学校文化連盟主催の全国大会に出場、優良賞の受賞に貢献、また学業の面でも優秀な成績を修めたことが認められた。

各部活動の成績

『厚高新聞』平成20年10月30日付・第230号より

- ◆陸上競技部
 - 県新人陸上競技選手権大会やりなげ 10位
 - 男子硬式テニス部
 - 北相地区新人大会 ベスト32
 - 女子硬式テニス部 北相地区大会出場
 - 男子ソフトテニス部
 - 県高校総体 団体 ベスト32
 - 県下高校ソフトテニス大会
 - 北相A地区予選会 ベスト8
 - 女子ソフトテニス部
 - 県高校総体 団体 ベスト16
 - 関東大会県予選
 - 五〇m自由形
 - ベスト32
 - 26位
 - ◆硬式野球部
 - 秋季県大会
 - 男子バレーボール部 北相地区大会 ベスト32
 - 女子バレーボール部 北相地区大会 3位
 - 女子バレーボール部 北相地区夏季大会
 - ブロック優勝
 - ◆男子バスケットボール部
 - 北相地区夏季大会
 - 男子バスケットボール部
 - ベスト4
 - 女子バスケットボール部
 - ベスト4
 - ◆女子バドミントン部
 - 新人戦 北相西地区予選
 - 新人戦 北相西地区予選
 - ベスト7位
 - ◆弓道部
 - 高校総体県予選 団体
 - 個人 四回戦進出
 - ◆器械体操部
 - 県高校総体
 - 個人 四回戦進出
 - 総合6位、16位
 - ◆卓球部
 - 県高校総体 団体
 - ベスト64
 - ◆ボクシング部
 - 全国高等学校ボクシング大会県予選
 - ベスト4
 - ◆ダンスドリル部
 - USA Nivette Championship 2008
 - 1位
 - ◆吹奏楽部
 - 県大会
 - 副賞
 - ◆軽音楽部
 - 南関東地区高文連軽音楽コンテスト
 - 出場
 - ◆クラシックギター部
 - 全日本中学校・高等学校ギターフェスティバル
 - 努力賞
 - ◆文藝部
 - 高等学校文芸部コンクール
 - 私立中学高等学校協力理事賞
 - 全国高等学校総合文化祭群馬大会散文部門
 - 出場
 - 全国高等学校総合文化祭栃木大会俳句部門
 - 出場
 - ◆物理化学部
 - 無敵班
 - オール神奈川コンテスト
 - 9位
 - ◆新聞部
 - 全国高等学校総合文化祭年間紙面審査
 - 優良賞

支部会便り

〈伊勢原戸陵会〉

実行委員として迎えた成人式 厚高同窓会『二十歳を祝うつどい』に感激

石川 純子(高59回)

一月十二日、私たち高59回卒業生が各地で成人式を迎えたこの日、私は平成二十一年伊勢原市成人式実行委員として、成人式に参加しました。

私のもとに市の職員の方から、実行委員の依頼の電話があったのは、昨年七月ころ。現在の大学生活との両立を考え、一度は断ったものの、一生に一度の成人式なのだからやれるだけやってみようと思ひ、今回引き受けることを決めました。

私が実行委員として担当したのは、メッセージブックの作成です。小中学校の卒業式にお世話になった先生方からメッセージをもらうために、昨年九月から活動を始め



伊勢原市成人式実行委員として(前列中央が石川さん)

市内の小中学校を回りました。なかなかみんなの予定が合わず、市の青少年センターの会議室を借りて、夜遅くまで作業をしたこともあり、大変なことも沢山ありました。普通にな成人として参加しただけではできなかった貴重な経験、また大きな達成感を得る事ができたと思つています。

市の職員の方を始め、歴代の実行委員の先輩方、成人式運営にあたる関係者総勢約百二十名もの方々が、当日協力のためにかけつけて下さいました。私は式典の中で成人代表の言葉を述べましたが、自分がこのように素晴らしい成人式を迎えることができたのも、多くの方々の支えがあったからこそだということに、非常に感謝の気持ちでいっぱいです。

また夕方には、例年行われていた厚本高校の同窓会『二十歳を祝うつどい』に出席し、久しぶりに会った同級生、先生方との楽しいひと時を過ごすこともでき、私にとつて本当に忘れられない一日となりました。

この日多くの方からいただいた言葉を胸に、これから社会にとつて必要とされる大人になれるよう未来に向かって頑張っていきたいと思ひます。



第40回 秦野戸陵会総会

〈座間戸陵会〉

発足して24年。充実発展に努力

会長 瀬戸 宏孝(高4回)

座間戸陵会(旧称は両青会)は昭和六十一年二月二十二日に座間市在住の方々を中心に旧制中学卒業生百六十名でスタートしました。現在の役員構成は会長、副会長若干名、幹事長一名、幹事十数名、約千名の会員に総会の案内状を出してあり、総会は原則毎年十月の第四日曜日と予めきめ、会場も一定の場所にして、出席しやすいように配慮しております。総会では予算等を審議するとともに、各界の活躍しておられる厚高の卒業生を主に講師に招き講演会を行い、会員の研鑽に努めています。

毎回現職の校長先生や、同窓会の会長幹事長等にもご出席いただき、厚本高校の活躍状況、特にスポーツ等の全国大会の出場状況や卒業後の進路等最新の情報も報告



平成19年度座間戸陵会総会

〈秦野戸陵会〉

秦野戸陵会の活動報告

支部の活動として、総会と懇親会を開催するようになって、昨年十一月で四十回を数えました。記録を紐解けば、昭和四十五年十二月に会則が制定されており、旧制中学卒業の先輩諸兄を筆頭に、世代を超えた交流が現在も脈々と続いています。就職などで秦野を離れた同窓生もこの時ばかりは都合を付け、懐かしい顔を見せてくれます。五年ほど前から、総会の企画を少し工夫し、通常総会、講演会、懇親会の三部構成としました。

記念すべき第一回の講演は県立大秦野高校で教鞭を取っていられた大貫育男氏(高21回)による「源氏物語の世界」、第二回は山名孝二氏(高4回)による「山に魅せられて」、第三回は戸陵会山岳会前会長の小森良章氏(高3回)が「山に魅せられてパート二」を一昨年は本会の会長でもあります八木伸一氏(中41回)が「健康の話」と題して、私達中高年には耳の痛い話をご講演下さいました。

また、昨年の十一月十五日(土)

〈相模原両青会〉

第20回総会に篠崎会長が講演

『いくたびか 死線のりこえ 米寿かな』

相模原両青会は創立二十周年を迎え、新春の役員会で記念行事を企画し、定期総会で設立当所からの功労者を顕彰し、篠崎会長の記念講演で意義ある総会が開くことができ、支えていただいた皆様に感謝申し上げます。

定期総会は九月二十日、恒例の相模原市民会館で開催し、来賓と

に開催した第四十回総会では、「ゲライダー部の思い出」と題して、福住博一氏(中41回)が戦前の社会背景や当時の思い出をお話下さいました。今は遠くになってしまった戦時下の記憶がよみがえったのか、参加いただいた多くの先輩諸兄の口から軍事教練や工場へ動員された勤労奉仕の話など、貴重な体験談をうかがうことが出来ました。

本年度も詳細は未定ですがおむね十一月の上旬に開催する予定でおります。多くの同窓生との再会を楽しみにしています。

広報委・古屋 一恵(高28回)

賞状

第五回
篠崎源太郎
柔道寒稽古二十五周年
皆勤セリ仍テ之ヲ賞ス

昭和十二年二月五日

相模原市立厚本中学校校長 本野 徹

昭和12年「寒稽古五ヶ年皆勤賞」受賞

〔海老名戸陵会〕

「海老名史跡ガイド ボランティアの会」で活躍



史跡ガイドで活躍する厚高OB

の年グライダー部が創設され、柔道の創始者嘉納治五郎師範が来校され、道場で記念写真を撮り、模範演技を披露されました。四年生はラッパズボンで紺の学帽をかぶり通学、この年「二・二六事件」が起きました。五年生は昭和十二年の卒業の年、柔道の寒稽古で五カ年間活動したことで、永野毅校長から表彰を受け、今でも寒稽古の賞状は色あせていません。

この様に夢多き厚中時代に心身共に鍛えられ、その後四年余りの軍隊では航空隊に所属し、厳しい人生を生き抜いて来られた体験談はまさに感動、勇気を与えてくれたことに感謝します。

本年二月の若手のOBの新役員十名が新戦力となり、絆を大事にした魅力ある支部を目指し、精一杯取り組んでいきます。
事務局長・安藤 和次郎(高9回)

〔愛川戸陵会〕

まさか晴天のへきれき 愛川戸陵会 佐々木力夫会長逝く!!



同窓林の下列での佐々木会長

去る二月十三日、愛川戸陵会会長、佐々木力夫氏(高10回)は急性心筋梗塞のため突然ご逝去されました。同氏は愛川町にある同窓林の維持管理、憶い出

の杜、づくりに大変なご尽力をされ、また長年愛川戸陵会のリーダーとして持ち前のあたたかい人柄をもって尽くされました。自然を愛し、山岳連盟のリーダーとして登山に精通され、近隣から海外に至るまで多くの山々を登破されました。大変残念です。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。なお任期残は副会長の小島道生(高12回)が会長代行として会務を行います。

広報委・大貫邦重(高16回) 合掌

て海老名のそれらの史跡を訪れるようになりました。

そのような中で公民館講座の修了者が中心となって創立されたのが標記の会です。その立ち上げから現在まで指導の役割で尽力されたのが高2回卒業の井出操さんなのです。井出さんは海老名ですつと教員生活を送られ、市内小学校の校長を最後に退職されたあとも市の文化財保護委員などの職を歴任されたその道のスペシャリストという経験を買われて、平成十六年に当会が発足以来会長を勤められ、現在は名誉会長をして後進の指導に当たられております。

当会の活動ですが、市内外のグループなどから要請に基づいていろいろな史跡などを案内することはもちろんですが、それ以外にも海老名市から委託されて市民を対象にした史跡めぐりの会を企画運営したり、ボランティアのガイド知識の向上を図る研修会を頻りに実施したり、活動は多岐にわたっております。

団塊の世代の仕事一途でこれらの方はなかなか地域になじむのが大変なのですが、そのような方の受け皿としても期待が持てます。井出会長は「現在会員には厚高の卒業生が三、四名程度しかいないが、幅広い知識を持った人材がたくさんいる卒業生にはぜひこのような地域の活動に参加し、活動してほしい」と話されておりました。

広報委・廣田 敏之(高17回)

〔御所見戸陵会〕

平成21年度活動計画から 毎回大盛況の「地引網会」



他支部の同窓会員にも好評の地引網会

第十一回総会が三月一日(日)午後三時より御所見市民センター三階ホールに、会員約三十名を集めて開催されました。総会では事業・会計報告、活動計画・予算案等慎重審議され承認されました。本会には例年どおり同窓会本部より近藤俊二会長をはじめ、堀英雄厚木高校校長、同窓会事務局次長の志村祐一先生にもご臨席いただき、ご祝辞ご挨拶を賜りました。事業計画では、年中行事となっている第九回地引網会を今年も五月六日に鶴沼海岸の堀川網にて行う事になりました。昨年の地引網大会は好天に恵まれたことと各地区支部会からの家族連れの参加も多くあり九十名を超える盛況ぶりでした。本年も楽しく開催できるように企画をしますのでご協力宜しくお願いいたします。

総会終了後、歯学博士杉崎秀夫

氏(高17)による「歯と健康」と題した記念講演を拝聴し、「健康で長生きしたいのなら治療より口内環境を清潔にし、インフルエン

〔大和戸陵会〕

世代を越えた強い絆

三期九年にわたり、会長を務められた座間茂俊氏(高2回)から、高橋武彦氏(高8回)へとバトンタッチした大和戸陵会、総会時の講演会を主事業として活動しております。昨年度は、「第三回青春かながわ校歌祭」「同窓林下刈り」などの行事にも参加をいたしました。

本年の第四回校歌祭は、厚木市

で開催される予定のようですから、これには、近隣支部として、積極的に参加をし、大いに盛り上げたものです。
『世代を越えた強い絆、世代ハ一モ二一』は厚高の伝統にまた一つ輝かしいページを加えることでありましょう。
広報委・青木清治(高8回)

〔厚木戸陵会〕

「忘れ物」か「物忘れ」か



スイスのジュネーブでの1ショット

金子 洋子(高17回)

海外添乗員になってから早二十数年。添乗員の仕事の中で一番重要かつ大変なのがトラブル処理である。盗難、病氣、ケガ、はたまた夫婦ゲンカまで多種多様であるが一番多いのは忘れ物である。十年前の事だがホテル出発前のバス内で「お部屋に忘れ物はありませんか?」と決まり文句の質問をした時に、ある客が「あつ」と言って立ち上がった。私も同行し部屋に入るなりその人は冷蔵庫を開け、「あつたあつた」と叫んだ。

取り出した物はビールならぬ良く冷えたバスポートだった。その他私の記憶の中に強く残っている忘れ物は新婚さんの結婚指輪である。トイレにたつた新郎が手洗い時につい指輪をはずしてそのまま置き忘れてしまったのだ。もし見つからなかったら一生奥様に頭が上がり

らないだろう。と新郎の心境を察し、私は祈る気持ちでそのレストランに電話をした。幸い指輪は見つかりわくわくしていた新婦の顔にも微笑が戻った。(かく言う私も忘れ物は何回もしているが、最近増えつつあるのは忘れ物ではなく、物忘れ"なのである。)

〈依知戸陵会〉

定年退職後に公民館長に

大塚 清一(高15回)

厚本市には市立公民館が十五館分館が一館あります。各館には非常勤の館長が配置されていて、私もその一人で、依知北公民館長に就いている。

公民館は地域づくりの拠点として、地域の人々が気楽に集い、話し合い、学習する場であつてほしいと願い、様々な活動を展開しています。しかし、予算も限られているため、なるべく経費のからない事業をしなければなりません。そんな中で企画されたのが「地域の史跡めぐりハイキング」です。

生まれてこのかた六十五年、依知に住み続けている。三代後半ばかり、文化振興、地域コミュニティづくり、青少年育成活動などに首を突っ込み、早三十年になる。平成十七年三月に藤沢市役所を定年退職し、四月から地元の自治会長を引き受け、翌十八年四月から館長となった次第です。

この地区の住民の約七割は地区外からの転入者であるため、地域コミュニティづくりには、この地域の歴史を知ってもらうのが一番の早道と考え、企画されました。私が講師役となり、コースの選択や解説文の作成やら、自らやっています。これは結構評判も良く、私の就任以来、続行されています。



中津川「才戸の渡し」跡で旧大山道を解説

現在、厚木高校のOBで、市内の公民館長に就いている方は、私の他四名おられます。小鮎公民館の森久保純生氏(高16回)、玉川公民館の山口義章氏(高15回)、南毛利公民館の城所文洋氏(高11回)上荻野分館の松本一郎氏(高12回)でそれぞれ皆、公民館活動のリーダーとして活躍されています。

〈睦合戸陵会〉

我が青春譜
憧れの神宮球場に立つ…

会長 難波 浩(高11回)



高校、大学時代は人間形成の基礎を作り、最も輝き自由奔放に生

きた、青春の貴重な日々であつたと懐かしく思い出す。厚高時代は柔道部で汗を流し、応援団に入り団長になつたことにより、大学応援団に憧れ、そのために空手道の稽古も始めた。

法政大学入学と同時に応援団に入団。毎年四、五十人の入団者がいるが、厳しい練習や、まだ残っていた鉄拳制裁に耐えられず三分の二が退団したものの、夏の合宿を終了すると正団員となり、胸に団のバッヂを付ける事が出来た。直立不動で「押忍!」と腹から声を出し頭を下げるのが応援団の挨拶の仕方、二年生は団の中核先兵とし、三年生は準幹部として



昭和37年 秋季リーグ戦 対東大戦

団を仕切り、四年生は「神様」であつた。三年生の二月に四年生の幹部会より、昭和三十七年度の団長に任命され、四月から東京六大学野球春のリーグ戦を迎えた。舞台は神宮球場で、大学野球のメッカであつた。前年の秋のリーグ戦で優勝した法大は、その勢いで勝ち進み、立大と同率首位の優勝決定戦を行う事になった。当日は法大生を始め、付属高校の法政一高、工高、女子高の生徒も動員、二万余の大応援陣容で臨み、三対零で完封勝利し、二連覇。優勝を果し、万余の法政応援の人達と感激の校歌を歌い、団長として指揮した事は生涯忘れる事ができない。引き続き、神宮球場から飯田橋の母校まで優勝パレード(提灯行列)を行い、学校での優勝祝賀会の後、神楽坂に繰り出し、美酒に酔う法大生と夜更けまで、何度も校歌、応援歌を歌い、優勝を祝う事ができた。「団長になり、神宮球場で校歌の指揮を執りたい」との拙い夢を追いかけ、ガムシヤラに駆け抜けた四年間であつたが、そこで体験し、学び、流した汗と涙は以後の人生に役立ち、生かされたと思つている。また、応援団入団のために始めた空手道は、継続して五十年(七段師範)、生涯修行の道として、今も稽古を続けている。

厚高応援団OB会会長

〈荻野戸陵会〉

手弁当で親睦の大山参り

会長 花上 肇(高11回)



苦しくも楽しかった大山ハイキング

荻野戸陵会では、昨年十一月、紅葉の大山ハイキングを楽しみました。十二名の参加者は、八時に本厚木駅に集合し、小田急で伊勢原まで行き、後はバスで大山へ。握り飯とたくあん、麦茶をリュックに詰めて、道中、気分は小学生。にぎやかに話が進む。あつという間に現地へ到着。小用を足し身軽にしていよいよスタート。ケーブルに乗る者、足に自信のある者は、自力で階段を登り、二班に分かれて行動。阿夫利神社駅で合流。

まずは、拝殿の地下から湧き出る名水を飲んで長命を祈願した。絶景かな相模湾。江の島や三浦半島を一望しながら、境内で記念写真を撮る。全員が写るように、通行中の兄ちゃんにシャッターを頼む。だいぶ動いたので、そろそろ腹も減ってきた。二重の滝を見ながら、見晴台まで、根っこだらけの山道(クマに注意)を歩く。紅葉に囲まれた素晴らしい眺めの場所。「さあ、お昼だ」自作自慢の好物を分け合いながら、おしゃべりが進む。「そろそろ、下山しようか」と誰かの声で、帰路につく。小生はケーブルで登つたので、男坂の石段に挑戦してみた。最初は快調だったが、あの急な石段の数で最後は、足がガタガタ。長かった。この歳になって、こんな試練が待っているとは。でも心身が鍛えられて、「大山参り」を満喫した。ケーブル駅で全員落ち合い、足を引きつりながら、途中の茶屋で一服。いつの間にか全員が生ビール。反省会と称して宴会が始まつてしまった。たつぷり汗をかいた後の一杯はうまい。名物味噌おでんも旨かった。あの味は忘れられない。楽しい充実した親睦の日でした。帰りの荻野行きバスは賑やかで次回の事で話がはずんでいた。荻野戸陵会は、アラカン(還)の人たちを中心としつかりした輪が出来て、さらに先輩方の御指導御協力の下で充実しています。すばらしい会を作り、伝統を築いて下さった方々に感謝しつつペンを置きます。

〈小鮎戸陵会〉

地区の紹介と活動報告

会長 志村 昂二 (高15回)

小鮎戸陵会は厚木市の西にあり飯山地区・上古沢地区・下古沢地区の三地区からなり、環境は西に大山を望み、地区内には白山を頂き、懐には飯山観音や東京の奥座敷と言われる飯山温泉が有り、春には桜まつりが盛大に開催されるなど、多くの観光客が訪れる緑豊かな地区です。

過去には公共施設として厚木市のごみ焼却場をかまえ、近年には厚木市畜場の開設が予定されているなど厚木市の福祉向上に寄与している。

人口は一五、八二二人(大矢明夫清川村長の資料から)で、戸陵会員は約八十余名である。

平成十四年に戸陵会が結成されて以来、私達小鮎戸陵会は厚木連合戸陵会の行事、各種会議、懇親会、ゴルフコンペなどに参加し、連合会の一員として協力。

さらに、厚木高校同窓会の「半原憶い出の杜同窓林」の草刈りや



小鮎戸陵会 冬季研修、元湯旅館にて(平成20年12月7日)

「かながわ校歌祭」などへの参加によって会員相互の親睦や母校の発展に寄与すべく活動している。本年も厚木市文化会館で行われる「かながわ校歌祭」にも積極的に参加する予定です。

次に、研修会の報告をいたしました。結成以来、重要事業として会員の親睦は言うまでもなく、石川範義前小鮎戸陵会長(厚木商工会議所会頭)の発案で会員の研修を行っております。

本年度は冬季研修会として平成二十年十二月七日に飯山元湯旅館において、講師として大矢明夫清川村長(高18回)をお招きし、「清川村、小さな村の村づくり」と題して講演をいただきました。

豊富な資料をもとに清川村と厚木市(煤ヶ谷地区と小鮎地区)の関係、宮ヶ瀬ダム建設の経過、清川村の総合計画を通して現在の村づくりと未来の村、厚木市・愛川町・清川村の協同による公共施設について、清川村・小鮎地区・七沢地区との連携強化など熱く語られ、会員一同大矢村長の大きな課題への取り組みの情熱に感銘と期待を抱かせた研修会でした。

引き続き懇親会が開かれ、講師の大矢村長・石川厚木商工会議所会頭・内田厚木連合戸陵会会長・伊藤厚木連合戸陵会幹事長を来賓に時間を忘れるほど母校の話題で和やかな時を過ごしました。

これからも会員の増強とさらなる会の発展を願ひ、会の活動に進んでまいります。

〈南毛利戸陵会〉

総会に山口前市長が講演

会長 城所 文洋 (高11回)

二月二十五日、JAあつぎ南毛利支所二階ホールにおいて、平成二十年南毛利戸陵会総会を開催しました。南毛利地区会員六十四名の出席に加え、同窓会本部から近藤俊二会長、志村事務局長の出席をいただきました。総会は城所会長の挨拶に始まり、平成二十年事業報告、収支決算報告、平成二十一年度事業計画、新役員選出等を審議し、出席者全員の賛成を得て議案通り決定しました。



平成20年度 総会(平成21年2月15日)

近藤会長はあいさつの中で「南毛利戸陵会の活動が大変盛んであることはとても喜ばしく、他支部の見本となっている。戸陵会の存在意義は同窓生同士の交流親睦の場であることと現役厚高生の援助の母体である」と話され、参加者一同会費の納入に是非御協力をいただきました。続いて山口前厚木市長から「その一言が我を支えてくれた」と題した講演をいただき、お父様からの教えとしての「憎くてたたくに非ず 笹の雪」との言葉は大変重みのある話でした。出席者全員での記念撮影のあと、アトラクションとして南毛利オカリナグループ「Happy Tree」の心温まる演奏を聞き、懇親会が始まりました。年代を超えて昔の思い出話を花を咲かせて大いに盛り上がり、あつという間の二時間が過ぎました。最後に関野幹事のリードによる恒例の「厚木高校校歌」を高らかに歌い、再会を約束して閉会しました。これからも会員の皆様のご協力を得て、活発な活動を実行していきたいと念願しています。

続きまして、山口前厚木市長から「その一言が我を支えてくれた」と題した講演をいただき、お父様からの教えとしての「憎くてたたくに非ず 笹の雪」との言葉は大変重みのある話でした。出席者全員での記念撮影のあと、アトラクションとして南毛利オカリナグループ「Happy Tree」の心温まる演奏を聞き、懇親会が始まりました。年代を超えて昔の思い出話を花を咲かせて大いに盛り上がり、あつという間の二時間が過ぎました。最後に関野幹事のリードによる恒例の「厚木高校校歌」を高らかに歌い、再会を約束して閉会しました。これからも会員の皆様のご協力を得て、活発な活動を実行していきたいと念願しています。

〈玉川・森の里戸陵会〉

小さな支部の文化活動

会長 朝生 旭 (高9回)

玉川・森の里だから言える、地域性を生かした一つの活動を発信します。

我が支部では、支部活動の一つとして毎年文化活動という名の行事を計画しています。今年度は、

〈清川戸陵会〉

会長は中37回の山田恵一氏

会長 山田 恵一 (高37回)

同窓生、市川英美氏経営の「市川屋」さんという製材工場の見学をしました。その中で見学できたのはプレカットという近代設備の中で木材がその用途に合わせて次々に仕上げられていくという見事な工程でした。

私もが往時目にしてきた木材加工の手法は今でもあろうかと思いますが、木材を用途に合わせて大工さんが墨付けをし、手作業で刻んでいたという作業でした。ブ



平成20年度 総会(平成20年7月26日)

レカットではそうした作業を全て図面を取り込んだコンピューターが制御し、寸分の違いもなく仕上げていくというものでした。その見事さに目を奪われました。こうしたことへの一つの活動を通しての同窓生が、木の香にむせんだ一時でした。

このあとの、玉川館を会場にして銘酒サカリマスでの懇親会もまた玉川・森の里という地域性そのものと言えらると思います。

支部独自の活動としては、年一回の総会とその後の懇親会。以前は村内で行っていましたが、昨年七月二十六日に初めて村外(厚木市七沢の末広寿司)にて行いました。会長は最長老の中学37回生の山田恵一氏が今も元気に努めておられます。

〈新潟戸陵会〉

素晴らしい自然環境に暮らして

会長 武久 武久 (高16回)

新潟戸陵会が発足して二年が過ぎました。それぞれの方が仕事、姻戚関係、終の棲家その他の関係で新潟に縁が出来、また母校で繋がった輪ができて本当に嬉しく思

っています。ここ新潟は以前の厚木と同じまだまだ自然環境が身近に残っています。開発が進み、人口も増え便利さだけが良くなっていくのは



田圃には白鳥も飛来する

決していい事だけではないような気がし始めました。消費は美德とする時代から転換して農業など第一次産業をもっと大切にすべきとも思えます。リタイヤヤ人生を送るようになり、地元の中高生対象のなんと六十歳以上の会員が五百名を超えている山岳会に入り、山々を歩き回るうちに「田圃まさに荒れなんとす」の風景に遭遇、ますます意を強くしました。

ここでも中高生が元気で登山やトレッキング、スキーを楽しんでいます。

新潟市内でも、冬には白鳥が飛来して越冬し、そこかしこの田圃で餌をついばむ光景を見ることができず、丹沢山塊では見られぬ雪割草、カタクリが春になれば群生して咲き、最初にその光景を見たとき関東育ちの私には忘れられない印象でした。また高山植物も夏までにはそれぞれ花を咲かせ、充分楽しませてくれます。これは年齢がある程度を越したから目がいくようになったのかもかもしれません。そしてフキノトウ、コゴミウルイ、山ウド、コシアブラなどの山菜が採れ、海は山形県境から



110名もの参加で、記念撮影も2回に

同期会便り

高11回同期会

卒業50周年記念同期会に110名参加

第十一回の同期会が平成二十一年二月二十一日(土)午後三時よりロワジールホテル厚木で盛大に開催されました。平成十四年十一月七日の創立百周年記念式典当日は、同期生五十六名が出席しまし

富山県境まで約三〇〇キロメートル続き、魚から海産物まで豊富、そして何と一つもおいしいお米。こんな素晴らしい自然環境に恵まれ新潟の同窓生は生活してまです。以前の雪国の暗いイメージはふっしょくしててください。

しかし冬は降雪。そのため車にはスタッドレスタイヤが必需品、そしてその交換が手間であることも事実です。その代わりスキー場はあちこちにあり、平日は貸切のような状況で交通渋滞にはほとんど縁が無いことです。

厚木ICや小田原方面の渋滞ニュースを聞くたび、神奈川の人は大変だなという感じがします。また

た会社勤めしてた折新潟から東京に再び転勤して、満員電車の通勤地獄を味わい、この集中は何なのか自問自答しました。「世界の中でこんな一極集中の都市があるのか?」そのくらい地方都市は未だのんびりできます。

今、東京、関東でゴルフをしようとしたら、ゴルフ場で表彰式はできてでも飲食のパーティは出来ませんね。こちらではラウンド後自宅へ戻り、居酒屋に再集合して表彰式、宴会です。田舎の地方都市に住み、一寸関東圏や都市を擲した田舎住まいが溜飲を下げました。

広報委・佐々木 健 (高15回)

事務局便り

事務局スタッフ10名に

本年四月の人事異動で、国語科の霜島士郎先生(高28回)が厚木の北高校へ、英語科の山重裕次先生(高28回)が大和高校へご転勤となり、数学科の松岡洋明先生(高37回)がマレーシアの大学へ教員派遣となりました。先生方には長年にわたり同窓会の各種活動に大変ご尽力をいただきました。特に、百周年記念事業ではいろ

たが、今回初の同期会には百十名が参加しました。大半は半世紀ぶりの再会で、互いに思い出せず、また、名前と顔が一致せず、ようやく確認してから積る思い出話に開会前から盛り上がりがありました。始めに恩師・同期生の故人に黙祷を捧げ、次に近藤脩代表幹事からのあいさつで開会しました。

担任の難波春美先生、大矢純夫先生、及び体育担当の須田清先生は体調不良のため欠席されましたが、国語担当の中村昭先生、英語担当の岡部清先生にはご出席いただきました。同級生全員が一つのクラスのように盛り上がり、終始談笑し和やかな雰囲気包まれていました。クラスごとの出席者紹介では、スクリーンに卒業写真が映し出され、在学当時との変貌ぶりに歲月の流れを感じました。

二年後の古希を祝う集い(同期会)の次期幹事の紹介もあり、元気で再会することを誓い、最後に厚高・法政大学で応援団長を務めた難波浩幹事の指揮で第一応援歌・校歌を声高らかに斉唱し、盛況のうちに閉会しました。

幹事・城所文洋(高11回)

いろいろな面でお世話になりました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今年度大和高校より内野秀明先生をお迎えし、次の十名の校内役員で諸処の活動に頑張ってくださいと思います。同窓諸兄のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

編集後記

同窓会会報第四十三号をお届けいたします。

今回の会報には、本年度着任された荒木高司校長先生、児玉洋子副校長先生の他に十七の戸陵会支部から原稿をお寄せいただきました。今後とも各支部会の活動がますます活発になることを祈念いたしております。

一昨年度から広報委員会を設置し、各支部より選出された広報委員さんのご協力で今回の会報が作成できました。ありがとうございました。

今後とも、会員諸兄のご健勝とますますのご発展をお祈り申し上げます。

広報委員会名簿 (平成20年11月末現在)

役職	氏名	卒会	所属戸陵会	連絡先
委員長	佐藤 忠一	(高10)	同窓会本部 (副会長)	0466(48)2222
副委員長	小澤 久夫	(高21)	伊勢原戸陵会	0463(94)0756
副委員長	小堀 恒夫	(高22)	相川戸陵会	046(228)0344
副委員長	池田 光義	(高9)	相模原両青会	046(256)1255
委員	古屋 一恵	(高28)	秦野戸陵会	0463(76)6930
委員	長田 敬幸	(高7)	横浜会	0467(78)5762
委員	鳥羽 克彦	(高38)	座間戸陵会	046(252)5438
委員	大貫 邦重	(高16)	愛川戸陵会	046(281)0014
委員	廣田 敏之	(高17)	海老名戸陵会	046(231)5329
委員	大貫 睦男	(高17)	御所見戸陵会	0466(48)5121
委員	青木 清治	(高8)	大和戸陵会	046(269)2109
委員	池田 清	(高19)	厚木戸陵会	046(228)2210
委員	大塚 憲二	(高18)	依知戸陵会	046(245)5488
委員	山岡 清	(高21)	睦合戸陵会	046(241)7672
委員	毛利 昇	(高16)	荻野戸陵会	046(241)0132
委員	頼住 道夫	(高22)	小貼戸陵会	046(248)2100
委員	小島 聡	(高33)	南毛利戸陵会	046(247)1029
委員	山口 義章	(高15)	玉川・森の里戸陵会	046(247)0477
委員	石川 武久	(高16)	清川戸陵会	046(288)1981
委員	佐々木 健	(高15)	新潟戸陵会	025(381)2681
委員	杉田 泰繁	(高14)	同窓会本部 (事務局長)	046(221)3736
委員	志村 祐一	(高24)	同窓会本部 (事務局次長)	046(224)0877
委員	石塚 修	(高28)	同窓会本部 (事務局次長)	046(241)7399